松川町地域産業推進協議会　第３回企画委員会　会議録

日時：平成 24 年４月 24 日（火）
午後６時 30 分～８時 30 分
会場：松川町役場　２階　大会議室

第３回目の企画委員会を開催。

今回は、前回第１回目の各部会のワークショップの成果(提案)について、他部会で検討を行いました。

次頁以降に、各部会から出された意見をまとめたものを添付します。

○農業部会への各部会からの意見

＜商業部会より＞

・空家店舗の活用で連携（例：早稲田商店街では空家店舗で食堂を営業し、残渣を堆肥化し無償で地元農家へ配布。農家で採れた野菜を食堂に提供と連携が図られている。）
・くだもの狩り、清流苑、新井商店街と観光客が循環するシステムをタクシーやバス会社などを含め検討してはどうか。（飲食店街巡り）
・物を作る
・町単独の産地呼称制度の創設など、物を作る強みがあるのが農業なので、高く売る仕組みを作って商業が売る。
・○○さんが作ったお米など、産地でなく生産者の氏名で食事を提供している居酒屋がある。
・ＴＰＰには中立的な立場。

＜工業部会より＞

・個人の農家では規模に限界があるので、法人化が必要。
・工業的な発想で、３交替制などを導入して生産効率を上げてみてはどうか。
・ＪＡの補助金ありきの姿勢に疑問。補助金は補てん金ではない。
・ＴＰＰについて、工業は賛成な立場。ＪＡとして反対の立場を示しているが、メリットとデメリットの洗い出しをして、複合的に検討をすべき。
・直売所は農家であって小売店と考える。商工会に加入して、一丸となりＰＲをしていけたらと考えている。
・原価管理など経営面において、農業分野は不透明な部分が多い。お互いに抱えている問題点を共有することが必要と考える。
・農業分野では地産地消を聞くが、工業分野では地産地消はほぼない。常に日本のみならず、世界に目を向ける事が大切と感じる。
・農業が抱える問題の解決の糸口として、品質管理部分なら現在の工業の技術力、販売部分なら商業の販売力、人員の確保なら法人化と各得意分野を活かしていきたい。

＜商業・工業部会からのコメントを受けて、農業部会としての意見＞

・今回の手法では、間接的にでしか意見交換をすることができず、直接話す機会を作っていただきたい。

○商業部会への各部会からの意見

＜工業部会より＞

・無理に工業と商業を結び付けず、自然に結びつくのが良い。
・良いものも安く売るのではなく、良いものは高く売ることにこだわる。
・良いものが売れるのではなく、売れるものが良いものである。
・みらいに販売スペースを設け、レストラン設置。
・直売所を拡大し、生産者と販売者をそれぞれのプロに任せる。
・地場産業＝（イコール）農産物、海産物の発想から転換をする。工業製品を売り出しても良いのでは。
・ごぼとん丼を松川町の食のＰＲとしてこだわっているが、いかがなものか。
・人口増対策が商店街活性化へ直結される。町としての今後のビジョンを明確にすべき。
・清流苑とインターを直結し、ハイウェイオアシスにする。
・インターがあることを活かしたショッピングモール、商店街を作る。
・個々の商店に未来があるかは疑問。町外からの誘致ではなく、松川町の商店だけが入れるショッピングモールの建設。町に任せきりではなく、建物（ハード）は町が作るが、テナント内容等の工夫（ソフト）は商店が考える。
・町から商店街活性化のための補助を出しても良いが、出し方を工夫すべき。貸し付ける形も検討。または補助金交付ではなく、一般からも投資を呼び込み、赤字補てんは一切行わない。
・学校の誘致。
・定住のターゲットは若い人とするのか、高齢者とするのかで対策が変わってくる。
・中高年が親の介護のために仕事を続けられないことが全国的に問題になっているので、高級完全介護の特別養護老人ホームを（最後の楽園的）建設。老人が集まれば地元の業者からの納品、病院、介護者等人が寄ってくる。
・リニアの駅から専用バスを出し、広域農道の景色の良さをＰＲ。

＜農業部会より＞

・農業と商業は結びつきやすい。
・松川町の魅力は何か。Ｉターンした方たちからの話を聞くと参考になるのでは。
・インターが近い農園は他になく、訪れた方たちが新井へ下りて生田へ行く循環作り。
・空き店舗を使った地元の人が食べられる食堂があって、新たにメニューを作るのでなく、地元にあるものをＰＲ。
・商業の活性化は新井商店街の活性化がポイントになる。
・誘客のターゲットを大型観光バスにするのか、個人にするのか方向性をだす。
・コテージ、山小屋をクラインガルテンやオーナー制ではなく貸出方式にして、遊休農地で野菜作りなどをしてもらう。都会の人が自然を感じられる形。
・葬儀屋を町で創設しＪＡと連携。地元のもので運営し地産地消を促す。
・みらいで朝市、テント村を開催。とにかくみらいを活用しないと今のままでは大きな事務所があ

るだけ。
・みらいで〇〇狩り、〇〇体験などのイベント企画を行い、観光の窓口として前面に出る。

★ワークショップの運営方法について・・・
　ファシリテータと補佐役だけが各部会を回っても良い意見は出ないので、各部会員がシャッフルされて各部会についての意見を出し合った方が活発化する。

＜工業・農業部会からのコメントを受けて、商業部会としての意見＞
・個人商店は大型店とは違ってお客様の家族構成や間取りまでわかる、言わば顔が見える商売が強みだったが、若い人はドライで安ければ良いと言った志向であり、ネット等で言葉を交わさずに買い物ができる時代なので、商店で買い物をしてもらうこと自体が危うくなるかもしれない。
・他部会から出た意見のように、ショッピングモール等の建設が実現することが理想かもしれないが難しいだろう。
・葬儀場は地元が循環する良い発想だと思う。

○工業部会への各部会からの意見

＜農業部会より＞

地産地消

・森林整備を兼ねて、薪ストーブ愛好家を全国から呼ぶ。

自然エネルギー

・河川利用の発電施設や発電技術を開発する。
・自然エネルギーの活用、タイアップしたらどうか。
・飯田市下久堅のような自然エネルギー体験型の家を作ったらどうか。

特産品

・バイオ技術を活用し、エビを養殖したらどうか。加工でき需要がある。
・栄養価の高いクルミを使ったチョコレート。保存がきき、お土産に最適。
・ジンギスカンが多いのはこのエリアの特色ではないか。焼肉のタレにも果物を入れる習慣がある。
・ワイン特区にしたらどうか。りんごワイン、シードルは世界的に人気があり、世界から人を呼ぶ。

宣伝

・インターから客をおろすことが重要。それには客が何を必要としているのかマーケティング調査、来てもらう仕組みづくりをする必要がある。
・サインボード（看板）の統一。
・交流センターみらいの活用。（過去の写真などを展示）
・水車のある風景はとても良い。

少数意見

・町出身のプロスケーターのプロデュースしたアイテムを設置する。
・清流苑近くにドッグラン施設を作ったら、ペットからの交流ができる。

＜商業部会より＞

特産品

・輸入できる農作物を作る。
・ウナギの養殖

＜農業・商業部会からのコメントを受けて、工業部会としての意見＞

少数意見

・海外でのイベントは道路を使うが、道路使用に制限が多い。簡単に使用出来ればよい。